

持続可能な学び舎

不二聖心女子学院高等学校
高校1年 小俣奈央 杉本磨衣子 土肥りか
平林智咲 劉ひかる

背景・目的

私達は、総合探究の時間で「みんな集まれ！学校がフィールドプロジェクト」を通して、人間と森の共生を目指した里山のデザインを考えることになった。高校生になり、勉学と私生活の両立の難しさや、インターネット依存や、運動不足など、現代ならではの問題を日常生活のなかで強く思うようになった。それらの問題解決のため、学院の広大な自然を活用した、生徒がもっと自然と関われる場所をつくりたい。

里山候補地について

本校は21万坪の敷地を所有しており、自然に恵まれていることが特徴としてあげられる。そして、校歌には1番に富士山、2番に伊豆の群山、3番に箱根山なみについて述べられている。(図1)しかし、それらの3つの景色を一望できる地点はなかったが、里山候補地の木々(図2の黄色線)を伐採(図3)することによって一望できるようになった。図4は、図2の★から見える景色である。

- 1.あまそそる 富士の高ねし
- 2.見はるかす 伊豆の群山
- 3.たたなづく 箱根山なみ



調査①「里山の周りに何があるのか」

持続可能な森「クヌギ林」

里山候補地の周りには、クヌギ林が広がっている。

<特徴>

「多様な生物の生息の場」

不二聖心の茶草場には下記のように多種多様な生物が生息している。

「表情変化」

冬にはどんぐりの実を付けて落葉。夏には葉をつけ表情変化を遂げる。

「再生、そして持続可能性」

木を切っても20年後には立派な木として成長する。⇒「持続可能な森」

<調査の概要>

9月～12月にかけて、里山周辺を歩いて散策・観察した。植物、動物、昆虫を撮影した。調査は同行の先生を含む6人で行った。



● コウチュウ目 ● ナナフシ目 ● バッタ目 ● チョウ目(蝶・蛾) ● 哺乳類

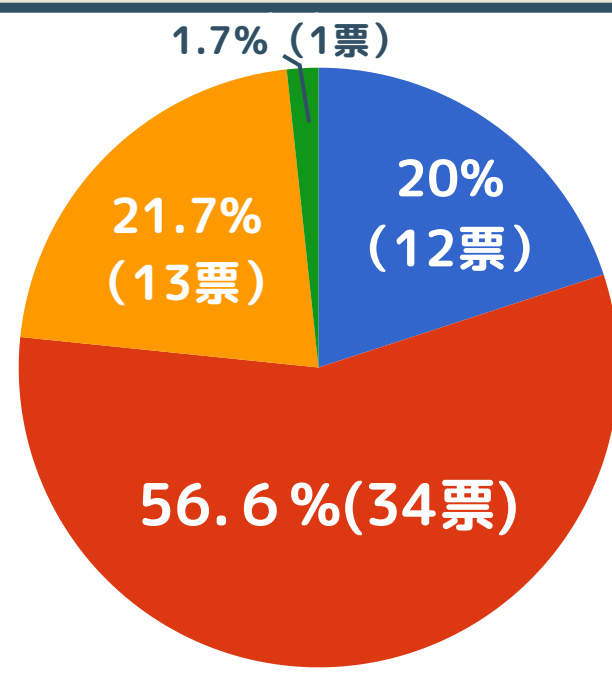
参考：『不二聖心女子学院に生息するサワガニの遺伝子分析不二聖心の茶草場の昆虫相についての調査報告』蒔苗博道

調査②「自然とのふれあい」

現時点で、生徒と自然との関係性について高校一年生60人アンケート調査した。

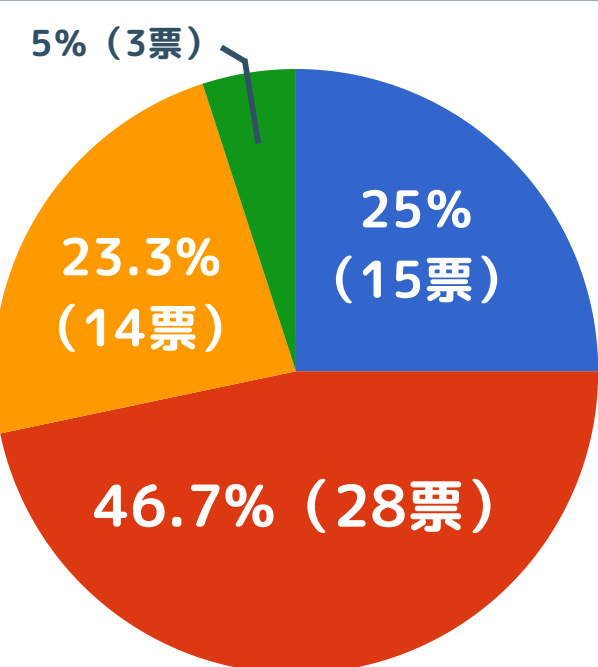
質問1：本校の自然とふれあえているか。

- 深くふれあっていると思う 20% (12票)
- ふれあっていると思う 56.6% (34票)
- あまりふれあっていない 21.7% (13票)
- ふれあっていないと思う 1.7% (1票)



質問2：里山候補地の木が伐採されて、なにか変わったと感じたか。

- 非常に思った。 25% (15票)
- 思った 46.7% (28票)
- あまり思わなかった。 23.3% (14票)
- 思わない 5% (3票)



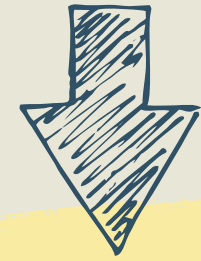
調査②からわかったこと：質問1から自然とふれあうことができている生徒が約8割いることがわかった。

質問2からは、木が伐採されてことによって変化を感じた生徒が約7割いることがわかった。多くの生徒が自然に興味・関心を持っていた。⇒それらをより深める場を

結論

〈学び〉〈癒し〉〈自然とのふれあい〉

を本校の土地でどのように生かすことができるのか



森の自習室

という案が生まれた。

考察 森の自習室

のイメージを3D化

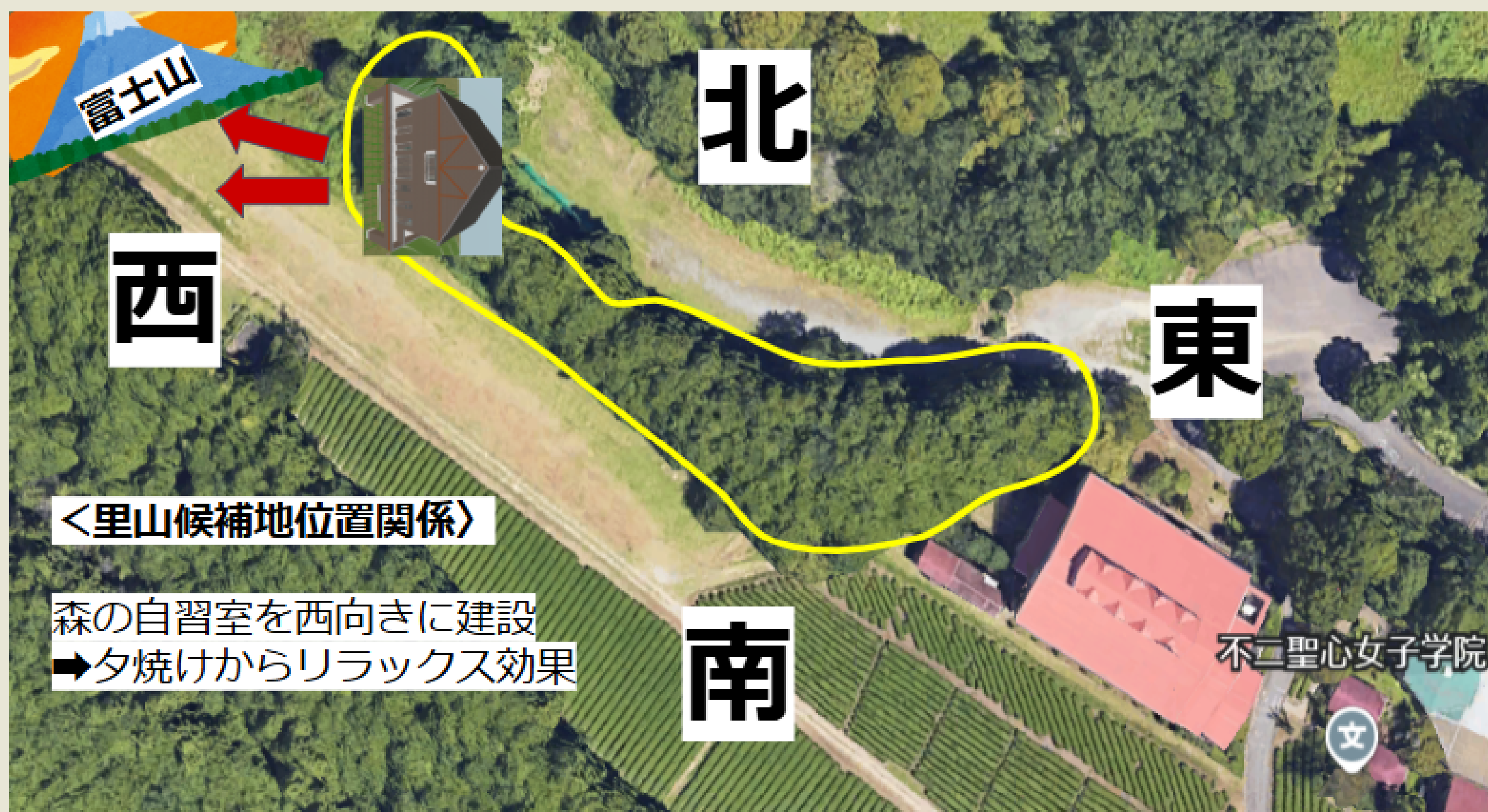
図①「外観」



図②「1階」



図③「2階」



図④「夕日の見える自習室」

里山に建つログハウス、「自然と向き合える空間」をテーマに、「マイホームクラウド」というウェブサイトを使ってイメージ図を作成・デザインした。

森の自習室（外観：図①）は1階と2階にわかれる。

〈学び〉

1階（図②）を自習室、2階（図③）をディスカッション・グループワークや、団らんできる場をつくる。そうすることで、自分自身と向き合って得ることができる学びと、他者との分かち合いから得られる学びという2種類の形がちがう学びを身につけることができると考えた。

〈癒し〉

インターネットに囲まれる生活のなかで、自然から得られる癒しについて話し合った結果、「夕日」が挙げられた。夕日は季節ごとに色や時間帯が変わるため、自然の変化を感じながら学ぶことができる。これにより、日常に新鮮さや楽しさが加わる。また、長時間の勉強で疲れた時、夕日を見てリフレッシュすることで、再び集中力を高めることができると考えた。そのために、2階に自習室を囲むようなバルコニーの設置（図③斜線部分）に加え、自習室を西向きに建設することで夕日が見えやすいようにする。（図④）

〈自然とのふれあい〉

どのようにすれば、より自然との関係を深めることができる場所になるかと考えたところ、まず、自然の豊かさを知ることが挙げられた。調査①で知ることができた里山周辺に生息している生物たちの図鑑や標本を自習室内に展示することで、図鑑は視覚的に、標本は触覚や細部の観察を通して学ぶことができる。実際の自然では、これに加えて音や香り、温度、湿度といった五感全体を使った体験が可能となる。

<今後の展望>

- ・この里山候補地に私たちのアイデアの柱となる自習室の建設。
- ・地域と連携（幼稚園や保育園、小学校、など）をし、不二聖心の自然を共有。

参考文献一覧

『マイホームクラウド』(https://myhome-cloud.net).
『くぬぎの木いっぽん』近藤麗美子 BL出版
『不二聖心女子学院に生息するサワガニの遺伝子分析不二聖心の茶草場の昆虫相についての調査報告』蒔苗博道
不二聖心女子学院学院ダイアリー (https://www.fujiseishin-jh.ed.jp/).
不二聖心女子学院公式Instagramより (ユーザー名: fuji_sacred_heart_school).

ポスター制作にあたり、森林について一から学び始めた私たちにさまざまなアドバイスをくださった東京農業大学の橋隆一先生、入江彰昭先生、阿部伸太先生に心からの謝意を表明いたします。合わせてポスター発表に至るまで関わっていただいた不二聖心女子学院の蒔苗博道先生をはじめとする先生方に感謝申し上げます。